令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：11月8日（火）
会　場：河内コミュニティセンター
参加者数：30人

参加者の発言	市の発言	備考
・民放メディアの方が定年になると，三次市に支局がなくなるおそれがある。ケーブルテレビが取材することもいいが，各支局が本市にあって，積極的に情報発信することは重要である。 ・合併前の三次市史の本を参考にさせていただいているが，合併して20年経ち，本市の歴史に関する本が出ていない。子どもたちが，ふるさとである三次の歴史を知り，誇りを持ってもらうために，学校で教本・資料を出版してもらいたい。特に，甲奴町は歴史が違う面もあることから，市全体の基本的な歴史をまとめてほしい。	・報道関係者と懇談した際に，どのように生き残りをかけていくべきか危惧されていた。今はスマートフォンで様々な情報が取れる時代である。報道機関が本市から支局を無くされたことは，大きな出来事であった。今後，民放の各局が，本市から撤退することがないように意見交換の場を設けていきたい。若い人は，携帯電話で情報を取得できるが，高齢者の皆さんはテレビで情報を得ることが圧倒的に多い。特に，高齢化が進みつつある状況を踏まえれば，テレビの役割は重要であることから，各支局と連携を深めていきたい。 ・合併前から歴史・文化に溢れており，それぞれの地域には特色のある文化財や歴史的な遺跡がある。現在，教育委員会では，市内外の方に知っていただくために，寺町廃寺跡などを取り上げて，わかりやすいリーフレットを出版している。地域の皆さんからの支援や協力をいただきながら，文化財や歴史などを発信していく。	
自分のかかりつけ医であった，市内の開業医が突然閉院して困った。そのような緊急の際に，行政として，例えば三次中央病院を紹介してもらうなどの仕組みを作ってもらえないか。	市内には，診療所や病院が約40あるが，医師の高齢化が進んでいる。医師会では，三次中央病院と開業医や庄原赤十字病院との連携などを展開され，医療と介護を含めたサービスの提供に向けた協議を進められている。服用薬がないことによって命や健康が危ぶまれることについては，今後，様々な連携を考えていかなければならない。デジタル化によって，自宅で診察を受ける，あるいは処方せんを受け取れる状況になりつつある。	
河内地区は，住民自治組織である河内まちづくり連合会や地域の推進協議会があり，学校や保育所と深くつながった地域づくりを行っている。若者たちが，もっと若者が入ってくるような地域にしようと活動をしている。藤山浩先生（一般社団法人　持続可能な地域社会総合研究所　所長）によるヒアリングの中で，河内地区の人口の流入状況を把握された報告書もある。現在と将来における河内地区のまちづくりについて，どう考えておられるか。	個性を生かした地域づくりが重要である。自治連合会などの皆さんが，各世帯とつながり，活動を行われていることが，河内地区の特徴であると認識している。またそこに加わるように，若い皆さんが，自分事として取り組まれていると実感している。地域は自分たちで作るという皆さんの意識が，地域の活性化には大事である。河内地区の特色に惹かれて，移住したいという皆さんに対して，これからどうやってアプローチをしていくか，課題として認識している。課題解決に向けて，一緒になって取り組んでいく意識は常に持っており，市内の色々な地域で，三次らしさを引き出していきたい。自分たちの地域に誇りを持っていただくことが大事と考えている。	
河内地区から自転車通学をしている子どもたちがいるが，歩道には草が茂り，木が倒れていることから，車道を通行せざるを得ない。車道に出てしまうと，次のガードレールが切れる箇所や縁石が消えるところまで行くことになり，危険である。安全・安心なまちづくりのために，改善してほしい。県にも相談しているが，要望しなければ対応してもらえない状況である。自転車通学でも田舎に住んでみたいと思えるようにしてほしい。地域の子どもたちのため，安全な通学路を確保するように，県と協議をしてほしい。 【市の回答後】 車で確認しても，状況はわからないと思う。保護者など様々な方の意見を聞いておられるが，まずは，通学している子どもたちの声を聞いてほしい。通学路の危険性は，子どもたちの目線から感じるものもあると思う。	・地域の皆さんには，通学路に立ち，子どもたちに挨拶や言葉をかけていただくなど，安全な通学のためにご尽力いただいている。全国的に通学途中の痛ましい事故がある中，平成26年から，三次市通学路交通安全プログラムを策定し，関係機関や関係者と連携し，各校区の通学路の危険箇所について洗い出しをしている。その結果を踏まえて，担当で確認し，できることから改善をしている。河内地区では，小学校前のバス停付近にある横断歩道の白線が消えかかっている箇所等について改修が必要であると確認している。県や警察により，薄い横断歩道の塗り替えが予定されている。子どもたちの安全・安心を担保していくために，どのように工夫すべきか，教育委員会としても考えていく。 ・地域やPTAの皆さんも，子どもたちが安心して通学できるような環境を望まれている。通学危険箇所を確認し，対応できるものについては，可能な限り対応している。県が維持管理している箇所にしても，関係機関で情報共有している。今後も，子どもたちの安全・安心につなげていくため，子どもたちの目線で把握していきたいと思う。	

令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：11月8日（火）
会　場：河内コミュニティセンター
参加者数：30人

参加者の発言	市の発言	備考
河内地区は過疎が進み，高齢者が多く，後継者も少ない。若い人が，「☆Kira☆（きら）びとこうち」を立ち上げ，河内地区の人口や小学校の児童数を増やすための取組をしている。今後，河内地区を知ってもらう，来てもらうための活動に取り組んでいく。	他地区では，自発的に，田畑を活用した体験型イベントなどに取り組まれている。広島市内から家族連れが参加し，地域の人たちと交流しながら，田植えや稲刈りをし，収穫したお米でおむすびを作るという体験をされている。引き続き，自分たちでできる取組を広げていただく中で，河内地区の元気づくりに結びつけていただきたい。	
若者は，地域の会合などに参加する機会が少なく，自分たちの意見を行政などに伝えるのが難しいと思う。若者と高齢の方とで意見の食い違いや，思いの違いが出てくるため，若者の意見や思いを地域活動に結び付けたくてもできない状況がある。	人は価値観や思いに違いがあることから，反対意見を尊重することも重要である。自分でこれがやりたいというものがあれば，どうすれば地域に溶け込んでいく事業になるか，仲間の皆さんなどとの継続的な話し合いが必要ではないか。各世代間において差異が生じることから，共通認識のもとで，課題解決に向けた取組を進めても，全てがうまくいくというものではない。地道に取り組んでいく必要がある。	
河内地区の環境整備や観光資源の整備を行っている。その際，支援事業補助金を活用しているが，ボランティア等への弁当代などは対象外である。	補助金の目的や使途基準などは，それぞれの補助制度に応じて定められているので，理解していただきたい。	
今年の6月29日に，オープンスクールを開催した。河内小学校は全て複式学級であり，複式学級のすばらしさを伝えるための取組である。複式学級にどのようなイメージを持たれているのか。	複式学級は，子どもたちが少人数で学び，先生がきめ細かな指導ができる環境である。各児童の学びの状況に応じた指導ができることが特徴であると捉えている。	
河内小学校では，同じ教室にいる子どもが，他の子どもに教えることが特徴である。先生がある生徒に教えている間，子どもたちが自分で課題を作り，その課題をもとに自分たちで授業を進めて，わからない子に丁寧に教えている。	河内地区では，保護者だけでなく，地域全体で，子どもたちの教育が進むように取り組んでいただいている。子どもが本当に必要な力をつけることができている環境になっているかなど，学校のあり方について，真摯に協議させてほしい。また，保護者や地域と情報交換を行っていきたい。例えば，ICTの活用によって，今からの時代を生きていく子どもたちにとって必要な力がつくのかどうかなど，話をさせていただきたい。そして，学校の魅力をしっかりと発信していく中で，保護者や地域の方などに関わってもらいながら子どもたちを育てていくという社会総ぐるみの教育は必要であると思っている。子どもたち自身が主人公となり，どこでも自己実現でき，さらにこの河内地区や三次市をしっかりと次世代につないでいくという自覚を育てていくことが大切である。そのためには，多くの方々に，今の子どもたちの学びをよく知ってもらい，見てもらうことが，今一番大切なことである。子どもの豊かな教育環境をどのように保障していくのかという観点から，意見交換したい。	
子育て世代として，河内地区の将来を考え，河内地区の良さを伝えるために，「☆Kira☆（きら）びとこうち」という活動をしている。河内保育所の今後の運営については，非常に厳しいという見通しを持っており，これから子育てをされる方に申し訳ない気持ちである。個性を持った地域づくりは，非常に良い取組である。河内地区を含めた各地域の具体的なビジョンや，行政の支援について，市民にわかりやすく示して，地域づくりを一緒にしてほしい。	・地域づくりの分析結果を参考にしながら，河内地区らしい地域づくりを一緒になって模索したい。 ・本市では，素晴らしい田園風景を生かした地域の皆さんの取組に対して，財政的支援として，地域資源活用支援補助金がある。地域の皆さんが，自分たちで地域資源を生かした取組をする際に，住民自治組織やNPO法人などの団体を通して，市として補助している。具体的な内容については，相談していただきたい。	

令和4年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：11月8日（火）
会　場：河内コミュニティセンター
参加者数：30人

参加者の発言	市の発言	備考
学校ごとに，取組内容や募集対象などを定めている自治体もある。三次市では，規模適正化の方針が定められており，不安を感じている。子育てしやすいまちをめざすのであれば，子育てを含めた，各地域の全体的なビジョンを作ってほしい。そのビジョンを基本として，地域で動いていきたい。	教育委員会として，小・中学校の規模及び配置の適正化についての基本方針を示している。子どもの学びの様子や，これから必要な力を身についていくかどうか，お互いに見て，話をさせてほしい。一定の基本方針に基づいて進めていく。教育は人づくりであり，まちづくりにも当然つながっている。	
・先日のテレビ番組で，新型コロナウイルス感染症対策の臨時交付金を活用して，巨大タコの模型を制作し，盛り上がっている町があった。この番組では，三次市の公用車の新車購入についても取り上げられていた。 ・100年後まで見据えながら，行政には，住民自治組織を重要視していただきたい。また，今後も支援をしていただきたい。	ご意見として受け止めさせていただく。	